

# 町医者だより

平成22年05月号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーTESCO2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器科

## 長時間作用ベータ2気管支拡張剤 (LABA) の安全性

今年2月に日本の厚生労働省にあたる米国食品医薬品局 (FDA) から通達がだされました。喘息治療に用いている長時間作用ベータ2気管支拡張剤の使用を必要最小限にとどめるべきだとする通達です。今月はこの通達の話です。

### 長時間作用ベータ2気管支拡張剤とは

「セレベント」、セレベントと吸入ステロイドの合剤である「アドエア」、2010年から登場したホルモテロールと吸入ステロイドの合剤である「シムビコート」が対象となる長時間作用ベータ2気管支拡張剤ないしその合剤です。長時間作用ベータ2気管支拡張剤は英語で long-acting beta2-agonist でその頭文字をとって LABA (ラバ) と言われています。

### LABAの単独使用は禁止されています

2006年にSMART試験という臨床試験の結果が発表になりました (Chest誌、2006)。これは喘息治療としてセレベント単独治療をプラシーボ(偽薬と和訳されます) と対比するものです。セレベント使用で症状の改善や呼吸機能の改善が認められたのですが、この試験で問題視されたのは、一部の患者さん(主に黒人) で治療によって喘息死が増加したことです。この報告を受けていつも出遅れる日本以外の各国の喘息治療ガイドラインは早々にLABA (セレベント) 単独使用を禁止し吸入ステロイドとの併用のみ使用可としました。私自身 喘息治療の根幹は吸入ステロイドだという考えから、それ以前からLABA単独で使用したことがなく使用するとしても吸入ステロイドと一緒に使用してきました。

### 今回の勧告は

FDAは2006年以降何かに取りつかれたかのように繰り返しLABAに対して不信感を表明していますが、今回の勧告ではLABAを含む治療は必要最小限にとどめ、喘息が安定したら吸入ステロイド単独に戻すようにというものです (NEJM、2010)。しかしながら問題点はLABAと吸入ステロイドの併用で、喘息死が増えるのかという検証が十分でないことです。2010年のCochrane Database Syst Rev誌での報告でも「アドエア」「シムビコート」どちらかの使用による喘息死の報告がありません。また日本やヨーロッパ各国でLABAが臨床の場に登場してからの喘息死亡者数の増加は認められておりません。FDAが納得するようにFDA主導で検証のための臨床研究を行い早急にその結果を公表すべきです。